
ウィダ ～世界を左右する者～

黒崎 桜樺

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ウィダ ～世界を左右する者～

【Nコード】

N8967Z

【作者名】

黒崎 桜樺

【あらすじ】

剣と魔法が支配する異世界フォース
魔族、ヴァンパイア、ドラゴン、エルフ、人間いろいろな種族が交わることなく生きている

ウィダは、親に捨てられ孤児院で育った。

そう思っていたウィダだが孤児院長 マルスから

「お前の親は多分生きている」と14歳の誕生日に言われる。

親に会ってみたいと、ウィダは孤児院を抜け出し

親探しの壮絶な旅が始まる - - - -

魔法・剣たくさん出てきます

始まり

「お前ら弱いな」

目の前で伸びている男どもに少年は言った。

おいおい少年と言っていいガキが大の大人を相手にしちゃったよ・

俺の生きてる世界って狭かったんだな、今年で53歳にもなるのに

店主のアルズは思った。

「なあ店主、冒険者ってどうやってなるんだ？」

顔を上げてみると、黒髪紅目の美少年がいた。

紅目つてめずらしいな、つーかどこぞの王子だよ、無駄にキラキラしやがって

少年は身長175cmぐらいか、無駄な肉が付いていないすらりとした体、長い手足、腰には剣がある、あまりにも顔が綺麗なので少女が一度は夢みる王子様といった感じた。

けれど、それを裏切るかのごとく服は年季が入っているのが一目でわかる。

つまりボロイ。

剣を売れば金になるだろうに、おしいなコイツと、物思いにふけて

「おい、聞いてなかったのかよ。どうやったら冒険者になれるんだ？」

「あー、悪い悪い。お前さん冒険者になりたいのか？」

この少年なら、冒険者になるより舞台役者になってもなつたほうが儲かりそうな気がするが・・・

「当たり前だろ、だから聞いているんだろっ！」

少年が怒りをあらわにする。

「やめとけ、やめとけお前さんみたいな美少年の顔に傷ができたなら、ご婦人方が悲しむ」

「はっ！何いってんだ店主」

馬鹿にしたように俺を見る、ぶん殴ってやろうか

「おい！こっちは心配して言っただ。何馬鹿にしたように俺のと見てんだ！それと俺のことは、アルズと呼べ、美少年」

「俺は、そこらにいる雑魚よりは強い自信がある！」

胸をはって言う

「それに、美少年、美少年ってうるせーんだよ！俺にはウィダって名前があるんだよアルズ！」

そうか、こいつの名前ウィダって言うのか。

それに「そこらにいる雑魚よりも強い自信がある」とはよく言ったものだ。

まあ、ここは俺が世の中の厳しさつてもんを教えてう

「で、冒険者つてどうやってなるんだ？」

「おいおいウイダ、タダで教えるはずないだろ」

「ちっ、なにすりゃいいんだ。言っとくが金は持ってないからな」

「そんなん、見ればわかる。あの男を倒したら教えてやらないまでもない」

と、店の中で一番騒いでいる男を指差す。男の周りには仲間が8人いる。

強面の顔つきで背もウイダよりも高いだろう

まあ、倒せんだろうがな、これでウイダは世の中の厳しさつてもんが分かるだろう。

もし倒せたとしても男の仲間にはやられるだろうが・・・
けれど、ウイダは臆することなく分かったといい指差した男に向かっていった。

「おい、お前、恨みはないが俺と勝負してくれ！」

あまりにも、正々堂々と言い放つ。

お前馬鹿かとゆうように一瞬で店の中が静かになる。

怯えているわけではなく、ウイダが倒されるのを楽しみにしているのだ。

今か、今かと。

「よっしゃー。勝負だ小僧」

いき良いおく立ち上がる男

「加減しろよ。デイル俺らはBランクなんだからな！」

仲間が声をかけ、店の中も騒がしくなる

どうやら冒険者だったらしい、ランクというのは強さの基準だ。

ーランク、ーランクの差は馬鹿にならないほどあり、一般の者はCランクである、

Bランクとゆうことは相当強い。

こりゃ、絶対に勝てんな

と思っていたら一瞬で勝負が終わった。

デイルがウィダに向かって突っ込んでいった。

すると、ウィダは慌てる様子も無く、左に避け、右足を軸に勢い良く一回転。

まだ、体勢を戻しきれしていないデイルに蹴りを入れる。

腹に蹴りをくらいデイルは5mほど吹っ飛び壁にぶち当たった。

泡を吹いて倒れた。

店の中が一気に静かになる。

ウィダが倒されると皆思ってたので無理は無い。

啞然とする仲間たち。

しかし、それもつかの間、デイルををやられて仲間は、黙っていなかった。

「この野郎！！」

一斉にウィダに突っ込んで行く。

8人が一斉に自分に向かって来ても焦っていないようだ。

「うるさい、雑魚は黙っとけ!!」

ウイダは容赦なく言った。

8回ゴトツと音がした。

8人の男たちは床に倒れてる。

ウイダがいた場所から動いていなかったら、ウイダがやったと誰もわからなかっただろう。

そう、まさに瞬きした瞬間には男たちが倒れていた、とゆう状況だった。

当の本人は涼しい顔をしながら残念そうに

「お前ら弱いな」

文句のように言う。

そして、ウイダが振り向き

「それで、どうやって冒険者になるんだ？」

始まり（後書き）

いかがでしたか？

初めて書いた作品なのでまだまだ物足りないかと思いますが
応援お願いします

評価、コメントよければお願いします

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8967z/>

ウィダ ~世界を左右する者~

2011年12月28日03時47分発行